

「平成27年度第2回 豊橋市地域公共交通活性化推進協議会」議事録

○日 時 平成27年8月25日（火）13時30分から

○場 所 豊橋市役所 第一委員会室

○出席者 別紙「出席者名簿」参照

○傍聴人 1名

○事務局 8名

〔会議資料〕

◆次第

◆出席者名簿

【資料1】「地域生活」バス・タクシー運行事業（北部地区（石巻西川・賀茂地区、下条地区））の事業計画の変更について

【資料1-1】石巻・下条地域交通推進委員会の取組について

【資料2】「地域生活」バス・タクシー運行事業（前芝地区）の事業計画の変更について

【資料2-1】しおかぜバス運営協議会の取組について

【資料3】「地域生活」バス・タクシー運行事業（川北地区）の事業計画の素案について

【資料3-1】かわきたバス運営委員会の取組について

【資料4】豊橋市地域公共交通網形成計画の策定について

豊橋市総合交通計画（仮称）（都市交通マスタープラン）

【資料5】豊鉄バス レイクタウン線 「可知病院入口」バス停位置の変更について

## 議 事

### 1. 開会

- ・本日の議事録署名者として2名の委員が指名された。
- ・今回の議事の内容あるいは進行の過程の中で、非公開事項に関するかどうかの確認がされた。(非公開事項に関する事項はなし)

### 2. 協議事項

(1)「地域生活」バス・タクシー(北部地区(石巻西川・賀茂地区、下条地区))の事業計画の変更(案)について

- ・事務局より、「地域生活」バス・タクシー(北部地区(石巻西川・賀茂地区、下条地区))の事業計画の変更(案)について、【資料1】に基づき説明が行われた。

- ・オブザーバーより、石巻・下条地域交通推進委員会の取組について【資料1-1】に基づき説明が行われた。

(オブザーバー)

- ・利用者は高齢者が多く、買い物や通院などに利用されているが、乗車される方は決まった人が多いため利用者数は増加しにくい状況である。そのため、地域外の方に利用してもらうため、平成27年3月20日～3月31日に柿の里バスカタクリバスツアーを実施した。月平均500～600名の利用があるが、3月は800人程度の利用があった。ガイドなどは自分たちで行った。参加人数は32人で往復64人が乗車した。

- ・春・夏休みの小・中学生の利用促進として小中学生と保護者が無料となるキャンペーンを行った。春の利用者は少なかったが、小学生が校外学習のための移動手段として「柿の里バス」を利用している例がある。最近では小学生の認知度も上がり少しずつ利用に繋がっている。

- ・月一回程度「柿の里バスニュース」を発行しており、以前は利用者の声を掲載していたが、最近では地域から出た意見などを掲載している。現在までに通算44号まで発行している。

- ・「柿の里バス」支援会員の募集を行っている。

- ・今後は、時期に応じたイベントやキャンペーンの実施、「柿の里バス支援会員」を拡大し地域で支える仕組みの確立、「柿の里バスニュース」の継続的な発行と「買い物やお出かけ案内チラシ」の作成・配布を行い利用促進に繋げていきたい。また、2ヶ月に1回程度の推進委員会を開催し、「柿の里バス」の利用促進を図るための運営をしていきたいと考える。

(質疑等)

(委員)

・変更内容の中で完全予約制のバスはバスツアー参加者などの地域外の方には予約制を認知しにくいと思うがどのように周知するのか。

(オブザーバー)

・今回の完全予約制のダイヤの設定については、カタクリバスツアーの中でカタクリを見る時間が40分程度しかなかったことも増発の理由である。バスの車内で運転手に伝えるだけでも予約となるので予約は難しくない考える。

・議長から協議事項(1)について諮ったところ、全会一致で承認された。

(2)「地域生活」バス・タクシー運行事業(前芝地区)の事業計画の変更(案)について

・事務局より、「地域生活」バス・タクシー運行事業(前芝地区)の事業計画の変更(案)について、【資料2】に基づいて説明が行われた。

・オブザーバーより、しおかぜバスの運営協議会の取組について【資料2-1】に基づき説明が行われた。

(オブザーバー)

・沿線校区を対象にしおかぜバスに関するアンケート調査を行い、その結果を回覧で住民に周知した。

・1,414世帯に配布を行った回収世帯数は707世帯で、1世帯あたり3枚まで、回収率は50%、回収枚数は1,584枚。しおかぜバスの認知度は、9割以上であったが、利用者は2割程度と少なかった。利用者の利用目的は通院、買い物、レジャーが7割を占め、残りの通勤通学は1割程度で、70歳以上が4割を占め、高齢者の利用が多かった。

・自由意見では、現在は車を利用するためしおかぜバスは利用しないが、高齢になったら利用したいので継続してほしいという要望もあった。また、通勤通学では時間が合わない朝の時間は早め、夕方は遅くしてほしいという声が多数寄せられた。

・しおかぜバスの利用促進を兼ね「ええじゃないかとよはし1日フリーきっぷ」を地域住民に周知した。

・しおかぜバス利用者アンケートを平成27年5月18日～22日にしおかぜバスの車内で実施した。回収は117枚。第1便と第3便の運行時刻を早くすると遅くするのはどちらも7割程度の方が早める方がいいと回答した。

・利用者は60代、70代が5割で、40～50代が3割、性別では女性が7割で、職

業は無職 4 割、パートアルバイトが 3 割、主婦・主夫が 1 割だった。また、7 割が車を所有していないことが分かった。

・今後も、しおかぜバスニュースの発行や会合等のあらゆる機会をとらえてしおかぜバスの PR を積極的に実施する。

(質疑等)

(委員)

・通勤通学の利用者に対し定期券を発売する予定はあるのか。

(オブザーバー)

・今のところ地域からもそういった意見はないが、今後の検討課題である。

議長から協議事項 (2) を諮ったところ、全会一致で承認された。

(3) 「地域生活」バス・タクシー運行事業 (川北地区) の事業計画の素案について

・事務局より、「地域生活」バス・タクシー運行事業 (川北地区) の事業計画の素案について、【資料 3】に基づき説明が行われた。

・オブザーバーより、かわきたバス運営委員会の取組について【資料 3-1】に基づき説明が行われた。

(オブザーバー)

・以前より地元からコミュニティバスの運行してほしいとの要望があり、平成 26 年 2 月 18 日にかわきたコミュバス準備委員会を立ち上げた。

・地域の状況として、豊鉄バスはあるが、近隣には大きなスーパーや病院もない。また、タクシーで豊橋駅まで行くと 1,000~2,000 円が必要で、車を持っていない高齢者には不便であった。

・バスの使用目的とバス停位置の要望を津田・大村・下地校区でアンケートした結果、豊橋駅が一番多く、次いで魚町での買い物、豊橋駅で他のバスに乗り換えたいという声が多くあった。高齢者の回答が多かった。

・アンケート結果を基に運行経路を考えたが、3 校区すべてを循環すると運行にかなりの時間がかかること、道路が狭いところが多いなどの問題もあり、大村方面と下地・津田方面の 2 系統に分けることなど運行内容の修正を行った。

・今後は停留所候補地の現地確認、バスの名称を地域住民に公募での募集、時刻表などの印刷物の作成など運行に向けた内容を実施していく。

(質疑等)

(委員)

・この路線は、豊鉄バスの路線と重なる部分があるが、運賃を豊鉄バスの運賃に配慮して設定したと理解する。過去の打合せの中で、豊川市民病院方面への利用者が大蚊里バス停で豊鉄バスに乗り換えれば利用増加などの効果が期待できると話があったが、この内容だと一方向へ回る形なので豊川市民病院方面への利用者の増加の効果はない計画と理解してよいか。

(事務局)

・豊川方面への豊鉄バスとの接続は、地域との協議で午前時計の反対回り、午後逆回りとするなどの検討をしたい。最終的に地域の意向を反映して決定したい。

(委員)

・現在の豊鉄バスの豊橋駅までの運賃やバスの運行頻度はどれくらいか。

(委員)

・大蚊里からは 250 円、変電所前からは 290 円、運行頻度は 30 分に 1 本くらいある。

(委員)

・柿の里バスもそうだが、豊川市のコミュニティバスと結接点を作って乗り換えができるようにするのはどうか。

(オブザーバー)

・アンケート結果でも豊橋駅の次に青山病院への要望があったので当初は考えていた。ただ、市と調整する中で市と市の関係もあるとのことなので今回は運行を見送った。将来的に豊川市方面へ伸ばすことも考えていきたい。

#### (4) 豊橋市地域公共交通網形成計画の策定について

・事務局より豊橋市地域公共交通網形成計画の策定について【資料 4】～【資料 4-4】に基づいて説明が行われた。

(質疑等)

(委員)

・今回の協議会で一番承認を得たい項目はなにか。

(事務局)

・まず、本日の会議で計画策定の進め方と今後の進捗管理の方法についてご協議をいただきたい。また、具体的な取り組みについて意見交換をお願いしたいと考えている。具体的な取り組みについては、今回合意するものではないが 11 月に開催する協議会で素案の協議をしたいと考えている。

(委員)

・豊橋市地域公共交通活性化推進協議会で検討する事項も豊橋市都市交通計画検討委員会で検討している内容を意識して考えなければならないのか。

(事務局)

・その通りである。

・事務局より豊橋市地域公共交通網形成計画の策定について【資料 4—5】～【資料 4—6】に基づいて説明が行われた。

(質疑等)

(委員)

・集約型都市構造を目指すとするが集約型とはどういう概念か。

(事務局)

・平成23年3月に策定された豊橋市総合計画、都市交通マスタープラン、都市計画マスタープランに位置付けられた概念で、豊橋駅周辺を都市拠点として、東三河の玄関口にふさわしい機能を集約していき、また、郊外については駅などを中心に地域拠点としてそれぞれの地域で生活するために必要な施設を集約させていこうという方向性を示すものである。それらを交通面で実現するために必要なものをまとめていくのがこの計画である。

(委員)

・豊橋は豊橋駅が中心的な拠点となっているが、愛知県内では、そのような拠点が形成できている都市は岡崎市、一宮市くらいでその他の都市は拠点がみつからないような状況。郊外にショッピングセンターができるなど徐々に広がってしまい分散が進んでいる。今の話の集約型を目指していくには交通だけでは解決できない。都市構造を見直す都市政策も必要だと考える。

・ヨーロッパの都市では、そういった拠点到車が入れないようにしているケースが多い。そういった車から解放された場所では、芸などの活動が盛んに行われていたり、歩いていると色々な情報を知ることができる。車に乗っていると人とのコミュニケーションはできないので、歩いてコミュニケーションをとれるようにするなど「おもしろい空間」を形成するなどを考えながら拠点をつくれたらと考える。

・集約型とは、言葉ではいいやすいが、この自動車社会の中での実現は難しい。自動車に対抗できるだけの都市プランを立てる必要がある。都市計画と交通網の両輪で検討を進めていく必要がある。

(委員)

・都市拠点が成立するためにも公共交通で様々なところと結ばなければ成立しないし、都市拠点ができると公共交通が有利になる。相互に考えていく必要がある。

(委員)

・都市計画上の市街地の考え方と都市交通をどうリンクするかは大きな課題である。都市全体の人口は今後どうやっても減少していくことは避けられず、豊橋市でも市街化区域内の人口は2割程度減少していく見通しである。そういった中でどうやって市街化区域内を集約していくのかを都市計画部門で議論しており、都市計画と交通を融合して計画策定を進めていく予定である。また、豊橋駅周辺の中心市街地については、中心市街地活性化基本計画をつくっており、豊橋駅周辺は、豊橋の核として事業を続けている。集約型都市構造の実現については、過去から大きな課題として認識している。現在では、駅前大通二丁目の再開発事業により、公共としても郊外に出ていったものをもう一度、中心市街地を集約していくといったことを10年程度前から進めており物販機能は弱いが飲食については集約が進みつつある。このように様々な機能を中心市街地に呼び込む取組も実施しており、両輪での取組を進めている。

(委員)

・それを踏まえても中心市街地をどれだけ魅力的にするかが重要である。歩いて情報を得られるような都市拠点にしないと人が来ないと考える。そういったソフト面も考えるべきである。豊橋では、土地の所有者が商店を営んでいることが多いが、浜松などではレンタルしていることが多い。その分店舗の切り替えも早い。

(委員)

・歩行者天国のイベントを春と秋に実施しているが、公共交通で来ると帰りの運賃の割引を受けれるなどの取り組みを実施している。これが恒常的になるには地元の理解も必要である。現在、開発を進めている駅前大通二丁目でも大きな広場を作る予定であるので、そういったものを活用するためにソフト施策を検討していく必要があると考えている。

(委員)

・立地適正化計画は、作成を進めていると考えてよいか。また、どこかで概要でもいいので全体像を見る機会はあるか。

(豊橋都市計画部長 瀧川雅弘委員)

・国の方針が最近出たところである。豊橋市も今年始めたところで今後3ヶ年ほどやっていく予定でいる。

説明が必要ならば資料を出して説明することも可能である。

(委員)

・交通は手段であり、行き先を作らないといけないものと考えている。立地適正化と公共交通を組み合わせると進まない。立地適正化と都市・地域総合交通戦略は連動してつくられていくとみてよいのか。

(委員)

・都市計画マスタープランをより具体的にしたものが立地適正化計画であり、都市計画

マスタープランの考え方を逸脱するものではない。

(委員)

・個別の内容で調整が必要となる場合があるので、その時に説明や資料提供をお願いしたい。

(委員)

・この立地適正化計画については、国全体で人口が減少していく中で、国全体で対処していくために考えたものである。都市・地域総合交通戦略は交通全体をどうするか、地域公共交通網形成計画は人口減少や超高齢化という課題に対して、交通をどうしていくべきかを地方自治体でつくることができるというものである。これについては、国土交通省全体としてサポートしていこうというものである。

協議事項(4)は計画内容の協議のため、議決なし。

### 3.報告事項

(1) 豊鉄バス レイクタウン線「可知病院入口」下りバス停位置変更について

・豊鉄バス株式会社取締役営業企画部長 長縄則之委員より【資料5】に基づき説明が行われた。

(質疑等)

・なし

### 4.その他

(意見等)

・なし

### 5.閉会

・事務局長の前田都市交通課長から閉会の挨拶があり、会議は終了した。

以上、議事の正確を証するため署名押印する。

豊橋市地域公共交通活性化推進協議会委員 .....

印

豊橋市地域公共交通活性化推進協議会委員 .....

印